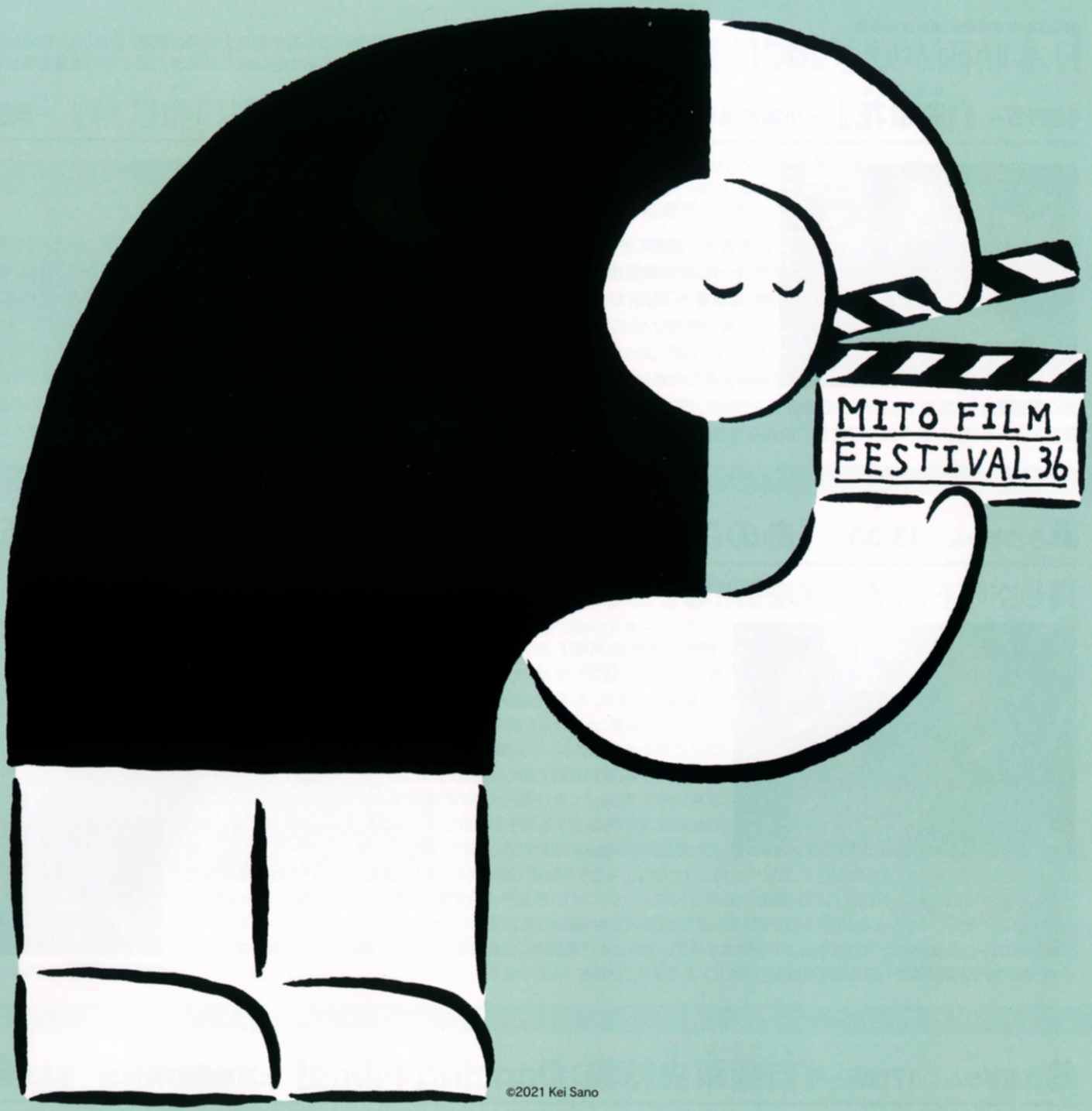
AFF
ARTS for the future!



©2021 Kei Sano

CINEMAPUNCH presents

36TH MITO FILM FESTIVAL 第36回水戸映画祭

2021.10.9 SAT・10 SUN

会場:水戸芸術館ACM劇場
http://mitotanpen.jp

MITO CREATIVE WEEK2021

主催:NPO法人シネマパンチ、公益財団法人 水戸市芸術振興財団、水戸映画祭実行委員会　後援:茨城県、水戸市、水戸市教育委員会、一般社団法人水戸観光コンベンション協会
協力:茨城映画センター、310+1シネマプロジェクト、ホテル水戸シルバーイン、あまや座、株式会社ブックエース

10.9sat.

10.10sun.

令和3年度優秀映画鑑賞推進事業

日本映画が好き2021 35ミリフィルム上映

国立映画アーカイブが文化庁及び日本各地の文化施設と連携・協力して、日本映画の名作を鑑賞する機会を広く提供する事業。
今回は世界の映画史に大書される巨匠の小津安二郎監督が親と子の関係を静かに見つめた、戦後の代表作を上映いたします。

主催：水戸市優秀映画鑑賞推進事業実行委員会／公益財団法人 水戸市芸術振興財団／国立映画アーカイブ
特別協力：文化庁／(社)日本映画製作者連盟／全国興行生活衛生同業組合連合会

10:15~『彼岸花』~小津作品初のカラー映画~ ¥500



1958年/カラー/スタンダード/118分
監督・脚本：小津安二郎
出演：佐分利信、田中絹代、有馬稲子、桑野みゆき、久我美子、笠智衆 ほか

娘が勝手に決めてきた結婚相手に腹を立てる頑固な父親の姿をユーモラスに描く、小津安二郎監督初めてのカラー作品。小津監督の言によれば、父がなじみにしている京都の旅館の娘役として大映から招いた看板女優、山本富士子を活かした明るい映画にしたいという会社の方針もあって、色彩映画に手をつけたそうである。小道具や着物ひとつひとつに気を配り、赤が映えるアグファ・カラーをネガフィルムに用いて、色をはぶき、色があって色がないような、つまりは「色即是空、空即是色」の心持ちで撮影に臨んだと語っている。ドラマチックな展開を極力排除し、さりげない会話のやりとりの中に人間のエゴを垣間みせるこの監督特有の手法が、あでやかな色彩とともに、見るものの心に染み込んでくる。母娘を演じた浪花千栄子と山本富士子による京都弁の掛け合いもまた愉しい。里見弴は小津監督の敬愛する小説家で、原作は小津監督の映画化を予定して書き下ろされたものである。「キネマ旬報」ベストテン第3位。

10:15~『秋刀魚の味』~小津安二郎監督の遺作~ ¥500



1962年/カラー/スタンダード/113分
監督・脚本：小津安二郎
出演：岩下志麻、笠智衆、佐田啓二、岡田茉莉子、三上真一郎、中村伸郎 ほか

この作品の構想を練っていた1962年2月、生涯独身であった小津は生活を共にしていた最愛の母を失った。その数日前、小津は映画人で初めての芸術院会員となり、喜びを分かち合ったばかりであった。戦後、小津の復活を知らしめた『晩春』(1949、笠智衆・原節子主演)以来、初老の父と独身の娘の関係がこの作品でも踏襲されている。身の周りの世話を娘に頼り、娘の行く末を考えもせずにいた父が、旧制中学時代の恩師と中年の娘がしがないラーメン屋を営んでいる光景を目にし、人生の孤独を感じつつ娘を嫁がせるのだった。恩師の娘を演じた杉村春子は、演技指導の厳しかった小津ですら何も注文をつけなかったといわれているが、無言の立ち居振る舞いはこの作品のテーマを見事に表現している。これまでになく人生の無惨さを描いたこの作品の翌年、小津は端正な作風そのままに、還暦を迎えた12月12日、亡き母のもとへ旅立った。「キネマ旬報」ベストテン第8位。

Aプログラム 13:30~『あのこは貴族』 ¥1,500

同じ空の下、私たちは違う階層を生きている──。



2021年/日本/124分　監督・脚本：岨手由貴子
出演：門脇麦、水原希子、高良健吾、石橋静河、山下リオ ほか

東京に生まれ、箱入り娘として何不自由なく成長し、「結婚＝幸せ」と信じて疑わない華子。20代後半になり、結婚を考えていた恋人に振られ、初めて人生の岐路に立たされる。あらゆる手立てを使い、お相手探しに奔走した結果、ハンサムで良家の生まれである弁護士・幸一郎と出会う。幸一郎との結婚が決まり、順風満帆に思えたのだが…。一方、東京で働く美紀は富山生まれ。猛勉強の末に名門大学に入学し上京したが、学費が続かず、夜の世界で働くも中退。仕事にやりがいを感じているわけでもなく、都会にしがみつく意味を見いだせずにいた。幸一郎と大学の同期生であったことで、同じ東京で暮らしながら、別世界に生きる華子と出会うことになる。2人の人生が交錯した時、それぞれに思いもよらない世界が拓けていく──。
都会の異なる環境を生きる2人の女性が、恋愛や結婚だけではない人生を切り拓く姿を描くシスターフッドムービーの新境地とも言える作品が誕生した。監督は初のオリジナル長編作品『グッド・ストライプス』で、新藤兼人賞金賞を受賞した岨手由貴子。20代後半から30代にかけて息苦しさを抱える女性たちが、軽やかに変化していく姿を、最後の青春譚として静かに紡いでゆく。
公開以来じわじわとロングラン上映を続けた話題の本作がいよいよ水戸映画祭にも登場です! 今回は、第8回水戸短編映像祭コンペティション部門入選監督でもある岨手監督をお招きしてたっぷりとお話をうかがいます。

※オンライントークの場合あり
GUEST TALK



岨手由貴子［映画監督］

Cプログラム 13:30~『典座 -TENZO-』 ¥1,500

信仰を失ってしまったわたしたち── 今こそ問う、仏教とは? 信仰とは?



2019年/日本/62分
監督：富田克也　脚本：相澤虎之助、富田克也
出演：河口智賢、近藤真弘、倉島隆行、青山俊董 ほか

本山での修行を終え、それぞれ福島、山梨の寺へ戻った兄弟子の隆行(リュウギョウ)と弟弟子の智賢(チケン)。重度の食物アレルギーを抱える息子を持ち、自分なりに今の時代にあった仏教を模索している智賢と、津波で全てを失い、瓦礫撤去の作業員として、ひとり仮設住宅に住まいながら本堂再建を諦めきれずにいる隆行。二人の若き僧侶の苦悩を軸に、曹洞宗の『典座教訓』の教えを通して、現代日本における仏教の意義を紐解いていく。
独特の映画制作スタイルをもつ映像制作集団 空族。『サウダーヂ』(11)、『バンコクナイツ』(16)に続く最新作は、仏教とそれを取り巻く3.11以後の日本のすがた。全国曹洞宗青年会とタッグを組み、第72回カンヌ国際映画祭の批評家週間「特別招待部門」に選出された本作について、富田克也監督と脚本の相澤虎之助氏をお迎えしてお話もうかがいます。作品はすべて未ソフト化の空族作品を体験する貴重な機会、どうぞお見逃しなく!

※オンライントークの場合あり
GUEST TALK



富田克也［映画監督］



相澤虎之助［映画監督・脚本家］

Bプログラム 17:15~『吉開菜央特集：Dancing Films』水戸映画祭特別編 ¥1,500



身体のすみずみの感覚に、目を向け、耳をそばたてれば 身体の内側も外側も踊りに満ちている

第72回カンヌ国際映画祭 監督週間に正式招待され話題を集めた「Grand Bouquet」をはじめ、映画作家・吉開菜央の中・短編集「Dancing Films」より、水戸映画祭特別編として4本をセレクトし上映します。
吉開は、米津玄師MV「Lemon」で出演・振付を担当するなど振付家/ダンサーとして活躍しつつ、映画/映像作品を積極的に発表してきました。実験的でありながらエンターテイメント性に満ち、視覚・聴覚だけでなく触覚的で嗅覚的表現を探究し、身体表現の軽やかさに満ちた表層とダークでファンタジックな深層が混交してゆく、比類なきアーティスト吉開菜央の世界を、是非大きなスクリーンとこだわりの音響で体感ください!

❶『風にのるはなし』2018年/日本/9分　出演：前田エマ
❷『梨君たまこと牙のゆくえ』2018年/日本/30分
出演：後藤ゆう、木村舞輝、哲夫(笑い飯)、レイザーラモン RG、歩りえこ、加藤アプリ
❸『ほったまるびより』2015年/日本/37分
出演：柴田聡子、織田梨沙、小暮香帆、菅彩夏、後藤ゆう、矢吹唯
第19回文化庁メディア芸術祭エンターテイメント部門新人賞
❹『Grand Bouquet』2019年/日本/15分　出演：Hanna chan
第72回カンヌ国際映画祭 監督週間短編部門正式招待

※オンライントークの場合あり
GUEST TALK



吉開菜央
［映画作家、ダンサー、振付家］

Dプログラム 16:30~『ジャッリカットゥ 牛の怒り』茨城県内 初上映!! ¥1,500

野獣〈牛〉とヒト〈群衆〉の暴走劇が炙り出す人間と社会の本性とは?!



2019年/インド(マラヤーラム語)/91分/原題：Jallikattu
監督：リジョー・ジョーズ・ペッリシェーリ　脚本：S・ハリーシュ
日本語字幕：松岡環　マラヤーラム語監修：栗屋利江
出演：アントニ・ヴァルギース、チェンバン・ヴィノード・ジョーズ、
サーブモーン・アブドゥサマド

インド映画の枠を超え、驚くべき視覚的トリックと奇想天外のアイディアで、カルト的人気を誇るリジョー・ジョーズ・ペッリシェーリ監督の話題作が水戸映画祭に!
南インド・ケーララ州のジャングルにある村で、いつもどおり肉屋のヴァルキとアントニは、水牛を屠(ほふ)ろうとするが脱走させてしまう。人々が追いすがるも、水牛は村を破壊しながら逃げ回る。
アントニは、ヴァルキの妹ソフィの気を惹こうと奮闘するが、農場主、神父、警察官、隣村のならず者らも巻き込み、村はパニックに陥る。そこに密売の罪で村を追放されたクッタッチャンが呼び戻される。彼は、かつてソフィを取り合い、自分を密告したアントニを恨んでいた。そして牛追いの群衆は制御不能となっていく……。
アカデミー賞®国際映画賞インド代表作品／インド国家映画賞 銀のハス賞(撮影賞)／ゴア・インド国際映画祭 銀の孔雀賞(最優秀監督賞)その他、各映画祭で受賞＆ノミネート多数。

※オンライントークの場合あり
GUEST TALK



安宅直子［フリー編集者］



軽刈田凡平［インド音楽ブロガー］

第36回水戸映画祭 関連企画

シネポートシアターMITO vol.47『茜色に焼かれる』

10.23(土) ①13:30~15:30 ②16:30~19:00　定員:各回15名程度

会場:Café zakka gallery MINERVA(水戸市宮町2-3-38 2F)　料金:前売¥1,700 当日¥2,000 ※各ワンドリンク付

この世界には、誰のためにあるのかわからないルールと、悪い冗談みたいなことばかりあふれている。
尾野真千子の4年ぶりとなる単独主演映画で、『舟を編む』『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』の石井裕也監督による人間ドラマ。



2021年/日本/144分/R15+　監督・脚本・編集:石井裕也
出演:尾野真千子、和田庵、片山友希、大塚ヒロタ、芹澤興人、笠原秀幸、泉澤祐希、前田勝、コージ・トクダ、前田亜季、鶴見辰吾、嶋田久作、オダギリジョー、永瀬正敏
https://akaneiro-movie.com/

1組の母と息子がいる。7年前、理不尽な交通事故で夫を亡くした母子。母の名前は田中良子。彼女は昔演劇に傾倒しており、お芝居が上手だ。中学生の息子・純平をひとりで育て、夫への賠償金は受け取らず、施設に入院している義父の面倒もみている。経営していたカフェはコロナ禍で破綻。花屋のバイトと夜の仕事の掛け持ちでも家計は苦しく、そのせいで息子はいじめにあっている。数年振りに会った同級生にはふられた。社会的弱者——それがなんだというのだ。そう、この全てが良子の人生を熱くしていくのだから——。はたして、彼女たちが最後の最後まで絶対に手放さなかったものとは?

●主催:310+1シネマプロジェクト　●問合せ:310cinema@gmail.com　https://310cinema.wordpress.com
●チケットのお求めは下記サイトまで
https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/01vtgjequ9v11.html

第69回悠悠映画塾『ゆずり葉の頃』

2014年/日本/102分　監督・脚本:中みね子
出演:八千草薫、仲代達矢、岸部一徳、風間トオル、竹下景子、六平直政、嶋田久作、本田博太郎



10.28(木) ①14:00~ ②19:00~　会場:ザ・ヒロサワ・シティ会館 小ホール　料金:前売¥1,100 当日¥1,400

●主催・問合せ:茨城映画センター「悠悠映画塾」Tel.029-226-3156　※各回、フルート奏者・宇高杏那さんとギタリスト・宇高靖人さんによるミニステージがあります。

那珂市 あまや座
Amaya-Za Urizura Ibaraki JAPAN

〒319-2102 那珂市瓜連1243(JR水郡線瓜連駅から徒歩約5分) Tel.029-212-7531　http://amaya-za.com/
※現在感染症対策で席が15席のみになります。満席の場合がありますので、HPまたはお電話などで事前予約をお願いします。内容が変更になる場合があります。

あまや座は2021年10月でお陰様で4周年を迎えます。映画を文化を愛する皆様へ感謝を込めて、今年も様々な企画を予定しております。ご予約お早めに!



10月で4周年を迎える、那珂市瓜連にあるミニシアター"あまや座"。この秋冬も邦画洋画新作旧作まで注目作の上映が目白押しです!本年のカンヌ映画祭で脚本賞他全4冠を受賞した、濱口竜介監督・脚本作『ドライブ・マイ・カー』を8月28日(土)~9月24日(金)まで上映。あわせて『寝ても覚めても』も1週間限定上映。また同監督の本年のベルリン国際映画祭銀熊賞『偶然と想像』も今冬上映予定。他にも、タナダユキ監督が映画と映画館への思いを込めたオリジナル作品『浜の朝日の嘘つきどもと』10月9日(土)~22日(金)まで。
※上映予定は変更となる場合があります。

TICKET INFORMATION

※出演者のキャンセル、変更に対しての払い戻しは一切行いませんので予めご了承ください。

9月17日(金) 発売!!

10.9(土)・10(日) A~Dプログラム入替制 [全席指定] 各¥1,500

10.9(土)・10(日) 日本映画が好き [全席指定] 各¥500

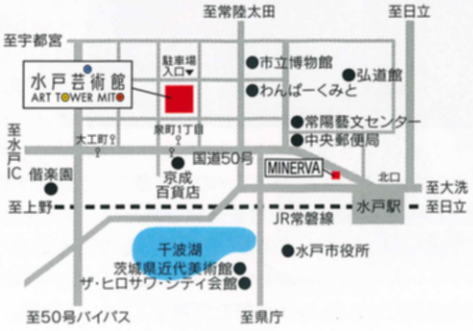
※各プログラム30分前開場となります(Bプログラムのみ15分前開場)。

[チケット取扱い] 水戸芸術館(営業時間9:30~18:00、月曜休館)
◎エントランスホール内チケットカウンター
◎チケット予約センター Tel.029-225-3555
◎ウェブ予約(24h・発売初日は9:30から)
https://www.arttowermito.or.jp/ticket/

●会場に関するお問い合せ 水戸芸術館 Tel.029-227-8111 https://www.arttowermito.or.jp/
●内容に関するお問い合せ NPO法人シネマパンチ Tel.029-253-5783

【新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください】
※感染状況により内容の変更や開催の中止を余儀なくされる場合がございます。最新情報は事前に必ず水戸映画祭ウェブサイトやSNSにてご確認ください。
●発熱など風邪の症状のある方、体調がすぐれない方は、ご来場をお控えください。●感染すると重症化する恐れがあるため、高齢者等の皆さまには、感染症対策・体調に十分ご注意の上、ご来場ください。●会場内では必ずマスクの着用をお願いいたします。●手洗いと手指の消毒にご協力ください。●会場内ではまわりの方との距離をお取りください。●会場での大声での会話はお控えください。●入場の際は検温を実施しております。ご協力をお願いいたします。37.5度以上の熱がある場合はご入場をお控え願います。●「いばらきアマビエちゃん」の登録にご協力をお願いいたします。●客席は社会的距離を考慮し、座席を減らし間隔を空けています。●クロークのご利用は当面の間、中止させていただきます。●感染症予防のための取り組みは水戸芸術館ウェブサイト及び会場内に掲出しております。

●水戸芸術館への交通のご案内
■JRご利用の場合
上野駅から常磐線、水戸駅下車。北口バスターミナル4~7番のりばから泉町1丁目下車、徒歩2分。
■高速バスご利用の場合
東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから常磐高速バス水戸行で約100分、泉町1丁目下車。徒歩2分。
■お車ご利用の場合
常磐自動車道水戸インターより約20分。芸術館地下駐車場をご利用ください。
(30分まで無料、30分~1時間までは200円。それ以降は30分毎に100円。)



順次更新中!

cinemapunch / mito.short.film.festival　@mito_tanpen　@mito_eigasai

公式サイト **http://mitotanpen.jp**